

学級活動（２）学習指導案

指導者 呉市立港町小学校 陰 菜穂子

- 1 学 年 第２学年１組 21名
第２学年２組 20名
- 2 題 材 「あい手の立場になって考えよう」
学級活動（２）イ よりよい人間関係の形成

3 題材について

（１）児童の実態

本学年の児童は、明るく素直で、授業中も落ち着いて学習することができている。第１学年の学級活動（１）では、仲良く助け合おうとする学級をつくるために、話し合い活動で集団決定したことをみんなで集会活動として実践する活動を行った。また、学級活動（２）で学習した「すてきなことば」では、言われてうれしい言葉とそうでない言葉とを考えることで、相手の気持ちを考えて話すことの大切さを学ぶことができた。当初、仲のよい友だちとのみ遊んでいた児童も休憩時間に新しい友だちと積極的に関わって遊ぼうとする姿が多く見られるようになってきた。しかし、休憩時間、やりたい遊びやルールについて、お互いに自分の思いを譲らないことで、しばしばトラブルが起こることがある。また、第１学年の生活科で行った「新しい１年生さんをむかえようの会」では、グループ内の意見がなかなかまとまらないことから、みんなで協力して、問題解決をしていこうとする意識があまり高まっていないと考えられる。

（２）題材設定の理由

２年生になって、クラス替えもあり、新しい交友関係が広がっていく中で、お互いの主張を譲れないままに感情が高ぶってけんかになったり、一人の意見ばかりが通って、周囲に不満がたまったりすることも多くなっている。また、そのようなことが継続していくと、人間関係を損なうこともある。この題材は、学級の人間関係の育成のために、自分だけの利害にとらわれず、十分に意見を比べた上で、友だちの気持ちを大切にしながら折り合いをつける大切さを学ぶことをねらいとしている。友だちと意見がまとまらない場合に、自分もよく、みんなもよい方法はないのかと、いろいろな面から考えることを通して、自分の生活を振り返り、実践化していくことができる題材である。本題材で学ぶ、物事に対する複眼的な考え方は、日常生活に限らず、教科学習でも汎用できると考える。

4 評価規準

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
評 価 規 準	自己の身の回りの問題に関心をもち、進んで日常生活や学習に取り組もうとしている。	学校生活を楽しくするために日常生活課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学校生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・ 題材を知る。 ・ アンケートに答える。 ・ 自分の問題について考えておく。	・ アンケート調査を行い結果をまとめ、学級の児童の問題の状況を確認しておく。	【関心・意欲・態度】 ・ 日頃の学校生活に課題意識をもっている。 (アンケート調査)

6 本時のねらい

自分とは異なる立場の考えを理解したり、物事をいろいろな面から考えたりして、よりよい問題解決をするためにはどうすればよいのかについて理解することができる。

7 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿と評価方法
つかむ	1 アンケートを基に、グループ学習や休憩時間に、意見がなかなかまとまらない場面があることを想起する。 2 納得できていない人がいることに気づき、その気持ちを考える。	・ アンケートに基づいた実際の場面を提示することで、児童の課題意識を高める。 ・ 納得できていない人の気持ちを考えることで、多角的なものの考え方が理解できるようにする。	場面絵	【集団活動や生活への知識・理解】 ・ 学校生活を楽しくするためにいろいろな立場の意見を聞き、よりよい問題解決のためにどうすればよいかを理解している。 (めあてカード・発言)
さぐる ・ 見付ける	3 なぜ、うまく意見がまとまらないのか原因を考える。 4 どうすれば、自分もよく、相手もよい解決策を見付けることができるのかみんなで話し合う。	・ いろいろな児童の考えを引き出せるように受容的な態度で進めていく。 ・ 実生活の場面から問題を提起し、みんなにとってよりよい解決策を見付けるためには、まずそれぞれの物事について、十分に考える必要があることを押さえる。 ・ 「にこにこ」と「ぷんぷん」の表情が両面にあるイラストを用意して「なぜにこにこになったのだろう」と投げかけ、児童の意欲を	イラストマーク 「折り合いのヒント」絵カード	

		高める。		
決める	5 自分の課題に合っためあてを決める。 6 互いに自分の努力するところを発表し合う。	自分自身の課題を確認できるようにし、相手の気持ちを考えると、何をどのように努力したらよいのかを考えて、より具体的な自己決定ができるようにする。	めあてカード	

8 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
- 自分の立てためあてや取組などについて振り返る。 - 友だち同士で取組を確認し合う。	- 事後に振り返る機会を設定し、実践化に向けて継続した取組になるように助言する。 - 多角的・多面的に物事を捉えて、よりよい解決策を導いたことを評価する。	【集団活動や生活への知識・理解】 学校生活を楽しむためにいろいろな立場の意見を聞き、よりよい問題解決のためにどうすればよいかを理解している。 (めあてカード・観察)

9 板書計画

め どうしたら、じぶんもよく、ほかの人もよいかいけつほうほうをみつけることができるだろうか。

つかむ

グループ活どう「あるある」

休けい時かん「あるある」

さくる

- 相手の気もちをかんがえていない。
- なにを言ったらいのかかわからない。
- じぶんがやりたいことができないのはいやだ。
- い見のまとめかたがわからない。

みつける



ドッジボールがしたい。



おにごっこがしたい。

い。ほかの学年がいてコートがとれない。

たのしい。ボールをなげたい。

い。おいかけられていない人が楽しくない。

たのしい。走りたい。

あてっち（走れるし、ボールもなげれる）
今回は時かんがみじかいからおにごっこつぎはドッジボール

きめる

じぶんのことだけでなく、あい手のことを考えると～

児童の問題意識を高めるために、アンケート結果から、これまで意見がまとまらず、うまくいかなかったことを「場面絵」にして示す。

相手のことも考えると、どうすることなのか、児童の言葉で語らせ、行動目標を立てさせる。